

米国原子力潜水艦のホワイト・ビーチ寄港に反対する抗議決議

去る1月10日午前10時47分頃、米国原子力潜水艦ロサンゼルス級ツーソンが休養、補給、維持目的のためホワイト・ビーチに入港し、およそ2日間の長時間に亘り停泊した後、12日の午前10時35分に出港した。原潜の寄港は今年になって既に2回目となっており、立て続けに寄港している状況にある。

原潜の寄港に関しては、平成19年から寄港頻度が増してきた中、平成20年には過去最高の41回を記録し、寄港回数の増加が常態化している。

本市議会においては、これまでも日米両政府に対し、平成20年7月に明らかになった原子力潜水艦ヒューストンの冷却水漏れ事故や通報なしの寄港、さらにホワイト・ビーチへの原潜寄港が近年、とみに増加している状況は異常であるとして、その詳細な説明と原潜寄港に反対すること等を強く求めてきたが、寄港増の要因については「米軍の運用上の理由」として説明がないままである。

また、昨年3月11日の東日本大震災における原子力発電所の放射能事故のおよぼす甚大な被害に伴い、原潜の寄港に関する市民や県民の不安は日々増大してきており、日米両国政府の責任は極めて重い。

「非核平和都市」を宣言したうるま市議会としても、引き続き国是である非核三原則を踏まえ、日米合同委員会において米国原子力軍艦の寄港に反対する旨の議題を取り上げ、日米地位協定第27条を適用して、今後いかなる理由があるにせよ、すべての原子力軍艦を寄港させないよう確実に改定することを強く求めるものである。

よって、うるま市議会は、市民の生命・財産と生活環境を守る立場からホワイト・ビーチへの度重なる原潜の寄港に対し、厳重に抗議するとともに下記事項について強く要求する。

記

1. ホワイト・ビーチへ米国原子力軍艦を寄港させないこと。
2. 米国原子力潜水艦の寄港については明確な説明責任を果たすこと。
3. 日米地位協定の抜本的改定を行うこと。

以上、決議する。

平成24年1月23日

沖縄県うるま市議会

あて先

米国国防長官 駐日米国大使 在日米軍司令官 在日米軍沖縄地域調整官
在沖米海軍艦隊活動司令官 在沖米国総領事